

お宅の「松送り」は、7日？ やはり15日？

今日は「七草粥」で何となく正月気分がお終いの感じで、今日が「松送り」の地方もあけるのかな？

「松の内」といえば、暮れにスーパー等に行くと、必ず松の枝を売っていたのを思い出した。

売られている松を見て、暮れになると父に連れられ叔父の持つ山にウラジロと松を取りに行き、また、家で夜なべにしめ縄を作る父を見ていた幼い頃を思い出していた。

父を思い出しながら、なぜ玄關にしめ縄や松飾りをし、鏡餅を飾るのか、習慣的な年中行事になっているだけにその意味するところを詳細に知らないままにこの歳まできたので、この際にと確認してみた。

正月の飾りや供物（くもつ）は、年の始めに、これから一年のくらしを祝福に訪れる神様（トシガミ）を迎え祭るためのもので、注連縄（シメナワ）は、神を迎える神聖な場所の区域を示すためとか。

また、しめ飾りは、しめ縄で作る飾りで、ウラジロ（長寿）、ユズリハ（家計を次の世代に継ぐ）、ダイダイ（家が代々栄える）などの縁起ものが現されているとか。

しめ縄は天照大神が再び天の岩戸に入らないように、入り口を縄で巻いたのが起源とか。新年に神様を我が家に迎えるために、道標しるべとして門に松が置かれる期間が「松の内」とか。

そして、神様が鎮座するための場所が鏡餅とか。

丸い鏡餅は、各人の魂を形取るもので、訪れた神によって生命の再生、更新を計らってもらうために、捧げる供物ともいわれているよう（魂は元々丸いものなのに、△や□、更に☆のような角張り尖った魂の持ち主かと思う人が、現代社会には、なぜ多いのかなあ～）。

おとそは、正月に「今年も家族全員が健康に過ごせますように」と飲む薬草酒（この正月、正真正銘のおとそをいただいた）。

ついでながら、元旦は大正月で、「松の内」は小正月の15日までとか。

でも最近では、15日まで長々とお正月気分にも浸ってはいられないということもあり、七草粥を食べるのも7日なので、7日でお正月は終わりという風潮になったよう。

でも、仙台は14日夜のどんと祭が全国的にも有名なだけに、やはり「松の内」は15日だろうなあ。

「鏡開き」も昔は20日に行われていたようだが、最近では11日。

伝統行事等のしきたりは、習慣化しているものが多いが、こうしてあれこれ調べてみると面白い！

今年も、雑学に邁進しまあ～す！！(^o^)

(2007年1月7日 記)